

(様式1)

令和3年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立中川小学校
校長名	中嶋 保徳

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・国語は全観点で、全学年、全国平均正答率を上回っている。・社会は、6年の「知識・技能」が全国平均より0.4ポイント下回っているが、他は、全観点で、全学年、全国平均正答率を上回っている。・算数は4年の「知識・技能」と「思考・判断・表現」が全国平均とほぼ同じ値であったが、それ以外は全観点で、全学年、全国平均正答率を上回っている。	<ul style="list-style-type: none">・理科は、6年生は全観点で全国平均正答率を上回っている。しかし、4年と5年の「知識・技能」と「思考・判断・表現」は、全国平均正答率を下回っており、特に基礎的な知識の定着が課題となっている。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・家庭学習は、全学年、ほぼ毎日行っていると回答している。学習習慣は身に付いている。・家族や友達、先生など周囲の人に支えられているかという設問への答えはどの学年でも全国平均と同水準かそれ以上のスコアとなっている。・規範意識(学級の規範意識)は、昨年度と同様、各学年全国の平均値を上回っている。	<ul style="list-style-type: none">・低学年で、他者からの評価に関する設問への答えが、全国平均よりやや低い。・学習意欲については、どの学年でも全国平均よりやや低いスコアとなっており、自分から学習に向かう姿勢には課題がある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果					課 題
	小3	小4	小5	小6	<ul style="list-style-type: none">・6年生については卒業までに、4年生の学習内容の平均正答率90%になるようにし、確実に身に付けさせる。・3年生が受けた診断シートは、今後の算数・数学の基礎となるものであることから、平均正答率95%を目指す。
平均正答率	85.1%	68.4%	72.6%	79.4%	
満点割合	6.1%	6.8%	4.9%	10.0%	
東京ベーシックドリル「診断シート」令和3年9月実施					
<ul style="list-style-type: none">・前期末(9月)に東京ベーシックドリル算数の診断シートを3～6年について実施した。 4年生以上は、4年生の「診断シート」を使用し、平均正答率及び満点の割合を算出した。 学年が上がるにつれて、平均正答率も上がっている。					

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 基礎的・基本的な学習内容の定着

- ①基礎学力の向上を目指して本校独自の校内学力調査を年2回実施する。学校独自の調査問題を作成し、基礎・基本の定着に向けた学力調査を実施し、定着度を検証していく。
- ②朝学習の時間（8：20～8：35）に、計算タイム（計算・文章問題プリント）、漢字タイム（漢字プリント）、読書タイムを毎週設定し計画的に実施する。
- ③算数習熟度別指導の充実
単元ごとにレディネステストを実施し、児童の実態に応じたクラス分けを行い、習熟度別指導の充実を図る。特に、DE層の児童に対しては、10人以下の少人数のクラスとする。
- ④新しい生活様式に則った形で、できる限り理科の観察・実験を充実させる。観察・実験を通して自然の事象・現象について実感を伴った理解を重視し、知識・理解に関連付けた指導を行う。
- ④「ふりかえりシート」やミライシードを活用し、特に社会と理科の基礎的な知識の確実な習得に力を入れる。

(2) 思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫

- ①校内研究を通して、教員の授業力向上を図り、「主体的・対話的な深い学び」に基づく授業改善を図る。
研究主題『主体的に学習に取り組む児童の育成 ～国語科における「読むこと」の指導を通して～』を設定し、国語科を中心に各学年と専科が授業研究を行い、教師一人一人の授業力を高め、児童の学力向上を図る。
- ②理科や社会において、資料や実験結果、事象などから自分なりの考えをもち、タブレット端末等を活用しながら意見の共有や発表をし合う機会を意図的に授業に取り込んでいく。根拠に基づいた話し合いを通して、知識をより確かなものにしなが、思考力・判断力・表現力を高める指導を行う。
- ③読書月間を6月と11月に実施し、読書の習慣を育て、想像力や語彙力を豊かにする。学校図書館司書を活用し、日常的に本に触れる機会を設け、「読み取る力」を育成する。
- ⑤タブレット端末を、効果が期待できるあらゆる教育活動で活用する。個に応じた学習の推進や、学び合いまた、自分の意見を発表するアウトプットの場面を意識的に増やしていく。

(3) 家庭学習習慣の確立

- ①毎日、一定量の家庭学習課題を出し、学習習慣を確立させる。低・中学年においては保護者にチェックをお願いし、保護者に対しても家庭学習への意識をもたせ、児童と一緒に取り組むことで家庭での学習習慣を定着させる。
- ②授業の学習内容については、宿題として単元の確認問題や「ふりかえりシート」、ミライシード等を繰り返し活用し定着を図る。宿題は、タブレット端末とノートを併用し、その内容にとって効果が高い方法を担任が考え組み合わせる。翌日には必ず内容を確認し、習熟・理解ができていない児童については、個別に指導していく。家庭学習は国語・算数を中心に計画的に行い、中・高学年では、社会・理科を含め実施する。
- ③「早寝、早起き、朝ごはん」を家庭で徹底させることで、家庭での生活習慣を整え学習に向き合う態度を育てる。

3 「令和4年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・国語は全学年において、全観点で、全国平均正答率より5ポイント以上高い成果を目指す。
- ・社会と算数については、学年間の差をなくし、全学年の全観点で全国平均正答率より2ポイント以上高い成果を目指す。
- ・理科は、D・E層合わせて20%以下をまずは目指す。そのためには「知識・技能」を底上げする必要がある。理科の全観点において全国平均正答率以上を目指す。